

呼吸器内科

■ スタッフ

科長	小林 哲
副科長	藤本 源
医師	常勤 3名
	併任 1名
	非常勤 6名

■ 特色・診療対象疾患

当診療科は、幅広い呼吸器疾患の中でも非専門医では対応困難な症例を診療対象としております。具体的には肺癌などの悪性腫瘍やびまん性肺疾患、重症の COPD、コントロール不良の喘息、非結核性抗酸菌症や肺真菌感染症などです。また、全科揃っている大学病院ならではのことで、全身疾患の一表現型としての肺病変を診療することも多く、血管炎症候群やサルコイドーシス、キャッスルマン病、IgG4 関連疾患、アミロイドーシスなどがそれに当たります。検査体制も充実しており、関連する診療科と連携しながら丁寧な診療を展開することが可能です。基本的に外来診療は呼吸器内科専門医が担い、病棟診療は複数担当医によるチーム医療としています。週1回の科内カンファレンスでは入院全症例を検討し、また呼吸器外科・放射線診断科・放射線治療科との合同カンファレンスでは、診断困難例や難治症例などを議論します。新規薬剤をいち早く導入し、最新の治療を提供するのも当診療科の使命と考えております。

1. 当科の特色

- 複数担当医によるチーム医療
- 関連する診療科との連携
- 難治性疾患を丁寧に診療
- 最新の医療設備・新規薬剤の導入

2. 主な診療対象疾患

- 肺癌をはじめとした悪性腫瘍
- びまん性肺疾患や膠原病関連肺疾患
- COPD やコントロール不良の喘息
- 肺非結核性抗酸菌症や肺真菌症
- 難治性全身性疾患の肺野病変 など

■ 活動実績

当診療科は、大学病院の役割である診療・教育・研究を偏りなく行うよう努めています。単にそれぞれの活動を行うだけでなく、この3つの活動が密接に関連するよう心がけております。たとえば診療で疑問に思ったことを研究分野に反映させたり、教育で培った知識を患者さんに還元したりしています。研究面では免疫学講座と協力して疾患モデルを確立し、病態の把握と新規治療法の開発を目指しています。学会活動も精力的に行い、聴講するだけでなく、積極的に発表し、情報を発進するようにしています。

1. 治療実績(2018年度)

- 入院患者(428例)の内訳
- 悪性腫瘍 330例
- びまん性肺疾患 34例
- 感染症 25例
- その他 39例

2. 教育活動の実績

- 卒前教育：医学部学生への講義・実習
- 卒後教育：研修医への臨床指導
- 大学院生への研究指導
- 患者教育：市民講座への参画

3. おもな研究内容(2018年度)

- 肺線維症・肺癌と Microbiome の関連
- 呼吸器疾患における MMP-2 の役割
- 肺線維症に対するトロンボモジュリンやペリオスチンを介した治療的介入
- EGFR-TKI 投与に伴う顔面ごそう様皮疹に対するステロイド軟膏の妥当性 など

■ 今後の展望

三重県は呼吸器内科を専門に診療する医師が少なく、人口当たりの専門医数で見ると、全国で最も少ない状況です。三重県全体の呼吸器診療の発展を目指して、診療レベルの維持・向上のみならず、人員の啓蒙・育成が必要不可欠と考えており、三重県内の呼吸器専門医在籍病院と協力して診療・教育・研究をしていきたいと考えております。

▶ <http://www.hosp.mie-u.ac.jp/section/shinryo/kokyukinaika/>